

奨学金給付等対象選考規程

(目的)

第1条 この規程は、一般財団法人佐々木泰樹育英会（以下「本財団」という。）が、定款第34条第12項に基づき、定款第4条第1項第1号に定める事業（以下「奨学金事業」という。）及び同項第2号に定める事業（以下「助成事業」という。）の対象を公正に選考するために必要な事項を定めることを目的とする。

(選考分科会の構成等)

第2条 選考分野ごとに選考分科会を設置する。

2 選考分科会は、それぞれ3名以上の選考委員をもって組織する。

3 選考分科会は、それぞれの分野における経験と知見を有する選考委員が2分の1以上でなければならない。

4 選考委員は、この法人の理事若しくは評議員又は外部の者から、理事会で選出し、理事長が委嘱する。

5 選考委員には、各選考委員相互に親族関係その他の特殊の関係にある者が含まれてはならない。

6 選考委員の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

7 この法人は、選考委員に対し、その職務執行の対価として、審査会への出席1回につき3万円（税抜）の報酬を支給する。ただし、審査会への出席に伴い生じた交通費は別途支給しない。

8 この法人は、理事会の承認を得て、選考委員に対し、その職務を行うために要する費用を支払うことができる。なお、理事会の事前承認を経ていない場合には、直近の理事会において報告の上、事後承認を得なければならない。

9 選考委員は、奨学金の支給又は助成の対象になるべく申請した者（以下「申請者」という。）との関係が次の各号のいずれかに該当する場合には、当該申請者に関する議案の審議及び議決に加わることができない。

(1) 選考委員が直接面識のある者が申請者である場合

(2) 選考委員が直接面識のある者の2親等以内の親族が申請者である場合

(3) 審議及び議決に際して公正かつ適正な判断がなされないおそれがある特別な関係が選考委員と申請者との間に認められる場合

10 選考委員は、審査会に自ら出席して意見を述べなければならず、代理人の出席は認められない。

(選考分科会の権限等)

第3条 選考分科会は、別に定める奨学金給付規程又は助成金給付規程に従い、各給付の対象となる資格を付与される者（以下「合格者」という。）の選考を行う。

2 選考分科会は、各給付を希望する者について、書類選考を実施した後、面接を実施することができる。

3 選考分科会は理事会の諮問機関であり、合格者の選考は、選考分科会の答申を踏まえて、理事会が行う。

（選考分科会の開催等）

第4条 選考分科会は、理事長が招集する。

2 選考委員のうち1名を委員長、1名を副委員長とし、委員の互選により選任する。

3 委員長は、選考分科会を代表し、選考分科会の議長としての職務を行う。

4 副委員長は、委員長を補佐する。

（決議）

第5条 選考分科会の決議は、第2条第9項各号に該当する選考委員を除く選考委員の過半数が出席し、その過半数の賛成をもって行う。ただし、特定の議案の決議につき、その決議前に、出席した選考委員全員の同意により、決議要件を加重することができる。、、

（通知書の交付）

第6条 理事長は、奨学金給付通知書又は助成金給付通知書授与式において、各合格者に対し、同通知書を授与する。

2 合格者は、前項に定める通知書の受領をもって、奨学金又は助成金の給付を受ける地位を取得する。

3 合格者は、正当な理由なく、1項に定める授与式に欠席した場合、合格者の地位を失う。

（補欠）

第7条 任期の満了前に退任した選考委員の補欠として選任された選考委員の任期は、退任した選考委員の任期の満了する時までとする。

（運営細則）

第8条 この規程に定めるもののほか、議事の運営について必要な細則は、選考分科会が別に定める。

附則

本規程は、2016年4月1日から施行する。

附則

本規程は、2017年11月21日から施行する。

附則

本規程は、2018年2月15日から施行する。